

# 距離感のくるう空間

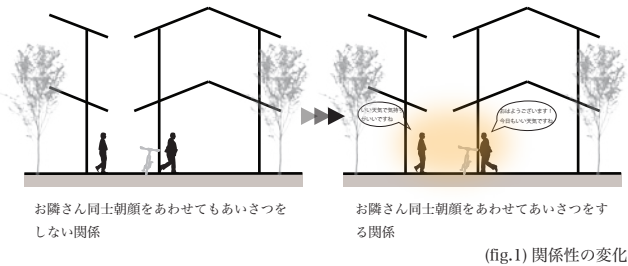
- ゆらぎ空間における人と人とのつながりの再構築 -

指導教員 吉松秀樹教授 印

9AEB3103 桜井 省吾

## 1. 人とのつながり

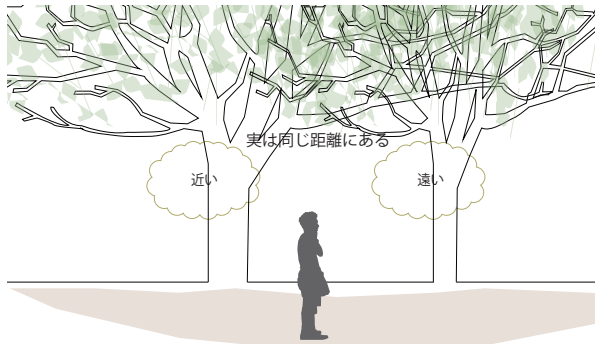
森的空間を用いることによって人と人の距離感をく  
るわし、そして今までとは違う人と人との関係を再構築  
することができるのではないかと考える (fig.1)。



(fig.1) 関係性の変化

## 2. 距離感の喪失

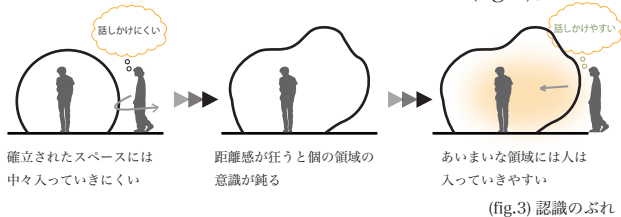
人間は距離感を認識するとき、自分と対象の間の遠さ・  
近さなどの情報から推測する。人間の脳は太いものは自  
分に近く、細いものは自分から遠いと判断してしまう  
(fig.2)。よって森のように大きさや太さの異なる木々  
がバラバラに並んでいるような空間では、距離感を誤認  
してしまう。



(fig.2) 距離の認識

## 3. 森的空間の魅力

森的空間つまり距離感のくるう空間をつくることによ  
って、人と人との関係性、時間の中で確立されてきた  
自分と相手との距離感をあいまいにさせる (fig.3)。

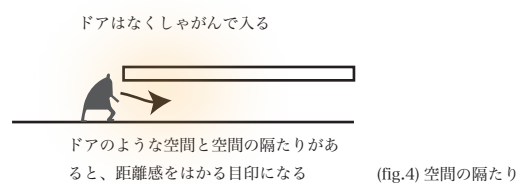


(fig.3) 認識のぶれ

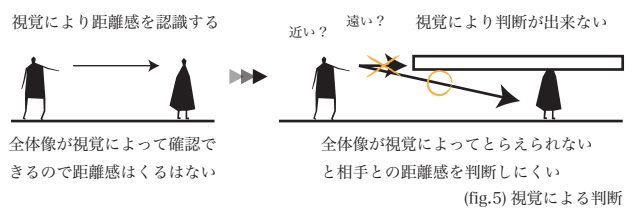
距離感がくるうと人と人との距離を勘違いしてしまう。  
本当は近くにいるのに思ったほど近くにいる感覚はなく、  
不快な気持ちを感じない。

## 4. 「見え隠れする住空間」

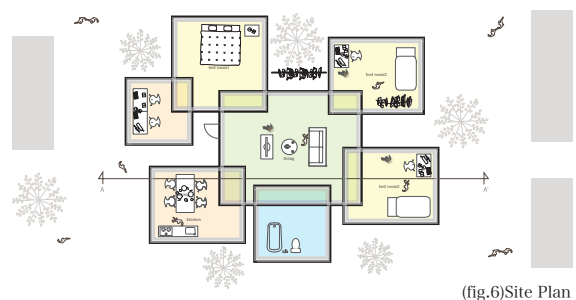
視線の見え隠れによって距離感をくるわせる空間を  
作っている。この空間は目線の高さに帯状の壁があり、  
見える見えないの連続によって人と人の距離感を勘違いす  
る。視線を合わせるためには、同じサークルの中に入るか、  
しゃがんだり、背伸びしたりして視線を合わせる。  
この空間では、家族間の関係性が再編される。



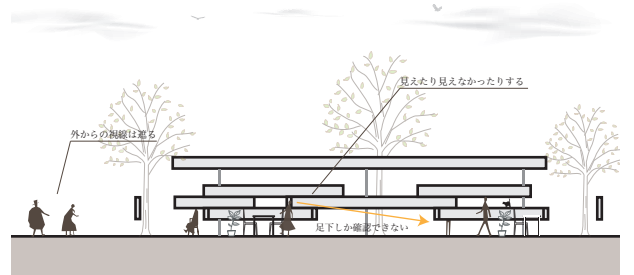
(fig.4) 空間の隔たり



(fig.5) 視覚による判断



(fig.6) Site Plan



(fig.7) A-A' Section